

*Team Le Mans*

# 2019年 SUPER FORMULA シリーズ Round.6 岡山国際サーキットレースレポート



**UOMO SUNOCO TEAM LEMANS**

UOMO SUNOCO SF19

#7 Yuichi Nakayama

#8 Kazuya Oshima



UOMO



制御盤三笠



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## 大会概要／大会名称

2019年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦 岡山国際サーキット

## 開催日時

9月28日 土曜（予選） 9月29日 日曜（決勝）

## 開催サーキット

岡山国際サーキット（1周 3.703 km） 所在地：岡山県美作市滝宮1210

## 同時開催レースカテゴリー

- ・2019年 全日本F3選手権 第19戦&第20戦
- ・2019 N-ONE OWNER'S CUP Rd.10
- ・TCRジャパン シリーズ2019 第4戦
- ・ロードスター パーティレースIII 西日本シリーズ第3戦

## 主催

アイダクラブ（AC） / 株式会社 岡山国際サーキット

## 公認

国際自動車連盟（FIA） / 一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

## 認定

株式会社日本レースプロモーション（JRP） / 日本フォーミュラ3協会（JF3A） / Honda ワンメイクレース事務局（HORS）  
日本TCRマネジメント株式会社（TCRJ） / ビースポーツ・パーティレース事務局（B-Sports）

## 後援

岡山県 / 美作市 / 岡山県観光連盟 / 美作国観光連盟 / 岡山県経済団体連絡協議会 / 岡山県商工会議所連合会 / 岡山県経営者協会  
一般社団法人岡山経済同友会 / 岡山県中小企業団体中央会 / 岡山県商工会連合会 / 山陽新聞社



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## ◆ UOMO SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

### ■ ドライバー



**#7 中山 雄一**  
YUICHI NAKAYAMA

生年月日 1991年7月25日  
出身地 東京都  
身長 177cm  
体重 67kg  
血液型 RH+B

### ■ 監督



**片岡 龍也**  
TATSUYA KATAOKA

生年月日 1979年5月1日  
出身地 愛知県  
身長 168cm  
体重 75kg  
血液型 RH+O



**#8 大嶋 和也**  
KAZUYA OSHIMA

生年月日 1987年4月30日  
出身地 群馬県  
身長 171cm  
体重 61kg  
血液型 RH+A

### ■ スタッフ

#7 チーフエンジニア	森藤 健吾	#8 チーフエンジニア	阿部 和也
#7 チーフメカニック	小倉 啓悟	#8 チーフメカニック	北井 修司

### ■ スポンサー

日本サン石油株式会社	TONE株式会社	リンテック株式会社
株式会社集英社UOMO	大同基礎工業株式会社	アシックスジャパン株式会社
株式会社前田シェルサービス	城東電機株式会社	株式会社トヨタカスタマイジング&ディベロップメント
株式会社オウルテック	株式会社ニチネン	トヨタ・ヤング・ドライバーズ・プログラム
DMG森精機株式会社	株式会社不二WPC	トヨタ自動車株式会社
カトー機械株式会社	引田時計店	横浜ゴム株式会社
エバー株式会社	広島化成株式会社	
株式会社三笠製作所	エンバイヤ自動車株式会社	



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## ◆ 予 選

天気	曇り～晴れ
コース状況	ドライ
気温	30度 (予選Q1開始時)
路面温度	34度 (予選Q1開始時)
予選開始	14時25分



2019年の全日本スーパーフォーミュラ選手権、最終戦ひとつ前のラウンドは岡山国際サーキット戦である。西日本のモータースポーツの中心地ともいえるコースが舞台だ。アールテム・マルケロフが同じ週末のFIA-F2ロシア・ソチ戦に出場するため、岡山戦は欠場。代わってトヨタ勢の若手実力派のひとり、中山雄一が7号車のステアリングを握る。ツイスティでテクニカル、コース全長が長くはない岡山での予選は、Q1が2組分割で戦われることとなった。同じチームのふたりは抽選で別の組に振り分けられる決まりで、UOMO SUNOCO TEAM LEMANS勢は大嶋和也がA組、中山がB組に。各組10台で戦い、6位までがQ2に進出できる。天候微妙そうな予選日だったが、ドライ路面に恵まれた。

### #7 中山雄一選手

**予選結果：19位 (予選Q1ベストタイム：1分15秒147)**

2種類あるドライ路面用タイヤのうちの硬い方、ミディアムのみ使用可能なQ1は、今回は分割開催のためセッション時間が各10分と短い。中山は後から走るB組で出走した。急遽の代走参戦ながら、朝のフリー走行では5番手タイムを記録していた中山。だが各車の走行条件が揃う予選本番になると、いきなりの上位進出は容易でなく、B組10位に。Q2に進出できなかった各組7～10位の選手は、最速タイムの出た組が予選総合13、15、17、19位ということになる規則。B組の方が速く、中山は19位となった。

### #8 大嶋和也選手

**予選結果：20位 (予選Q1ベストタイム：1分16秒179)**

先に走るA組の大嶋も苦闘した。ミディアムタイヤのウォームアップに苦しみ、そのグリップを完全には引き出せないままのアタックとなってしまう、A組10位という結果に予選総合順位は20位ということになった。悔しい結果だが、長い決勝レースでの浮上に向け、戦略面を含めてチーム一丸、中山とともに立て直していくしかない。



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## ◆ 決 勝

天気	晴れ～曇り
コース状況	ドライ
気温	30度（決勝スタート前）
路面温度	37度（決勝スタート前）
決勝レース開始	15時05分（フォーメーションラップ開始）
周回数	68周予定 （*最大レース時間に到達、66周で終了）



### #7 中山雄一選手

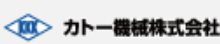
**決勝結果：15位（所要時間：1時間31分36秒431、ベストタイム：1分17秒834）**

天気予報が微妙な週末だったが、決勝日も晴れ～曇りで夏を思わせるくらいの暑さに。ドライ時はソフトとミディアム、両方のタイヤを使用する義務があり、さらに今回は追加規則で「先頭車が10周目の第1セーフティカーラインを通過した時点から先頭車が最終ラップに入るまでにタイヤ交換を完了すること」という項目が加わっている。簡単にいうと、10周終了時より前にタイヤ交換しても義務消化にはならない。中山はソフト装着で19番グリッドから1年1カ月ぶりのスーパーフォーミュラ決勝に臨んだ。8周目にセーフティカー（SC）導入となるアクシデントがあり、このSC先導スロー走行中に迎えた10周終了のタイミングでピットへ。ミディアムを履いてコースに戻り、翌周またピットに入ってソフトに戻す。ソフトとミディアムのラップタイム差が大きいため、ミディアムをSC走行中に1周で捨てる作戦だ。効果的な作戦敢行とはなかったが、中山はポジション的にはレースを通じて後方を走る展開に。だが、他車の脱落等もあり最終的には15位に上げてゴール、難しい代走参戦でトップ一周回の完走を果たした。

### #8 大嶋和也選手

**決勝結果：8位（所要時間：1時間31分10秒730、ベストタイム：1分17秒252）**

20番グリッド発進の大嶋もソフト装着でスタートし、10周目近辺のSC導入を利用して連続ピットイン、ミディアム使用義務を1周で済ませ、再度ソフトを履く戦略を採った。SC撤収、レース再開の時点で大嶋は15番手。その後は好感触で走るが、抜けないコースで前を走る17号車をパスできずに苦しむ。しかし上位車のトラブル発生で14番手となったあと、38周目、ついに17号車の前に出ることに成功し13番手へ。そして終盤、タイヤ交換を遅らせていたマシンのピットイン等で順位が動き出すと大嶋はそこまでの好ペースが活き、徐々にポジションアップしていく。1号車を追いかけて、62周目にはトップ10圏内の9番手に浮上、入賞まであと一步の位置に。そして最終周となった66周目に上位でストップしたマシンがあり、大嶋は8位でフィニッシュ。第2戦の3位表彰台以来となる今季2度目の入賞を“12台抜き”で達成した。



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## 中山雄一選手のコメント

まずはスポット参戦の機会を与えてくださったチームと関係者のみなさんに感謝したいと思います。このスピードレンジのマシンに乗るのは約1年ぶりでしたが、初のSF19で金曜の走行から自分なりにすぐ感触をつかめました。予選でもアタック自体は良く、上とのタイム差もそれほど大きくはなかったんですけどね。レースでは作戦は良かったものの、ペースがもうひとつで、あとコンマ2~3秒速いラップタイムで走っていれば最終的な順位も違ってきたかな、と思うところです。急遽の参戦で上にいけるレースではないですからね。状況のなかでいい走りはできたとも思いますが、週末を通じて（上位を争うための）合わせこみができなかったです。

## 大嶋和也選手のコメント

アンダーステア傾向はありましたが、レースペースは良かったと思います。他車よりもリヤタイヤがタレてこない感じでした。ただ、相手を簡単に抜けるほどの速さまではなかったことも事実で、17号車をパスするのに時間がかかりました。予選のことを考えれば、決勝で8位に入賞できたことは良かったです。とはいえ、結果はともかく（予選で）速さを発揮できない状況はドライバーとして嫌なものです。最終戦では結果も意識はしつつ、まずは速く走れるようにチームと頑張ります。

## 片岡龍也監督のコメント

予選に関しては、もともとミディアムにチーム全体として課題を抱えていた状況はあったにしても、特に言い訳できる要素もないなか、あまりにも残念な結果でした。レースについては今回“10周ルール”というものが入ってきた状況で、浮上に向けてなにかできることはないかと考えたときに、SC導入になったら連続ピットインして、レースをほぼソフト2セットで走る作戦がある、と考えました。実際にそのタイミングが来たわけですが、2台で計4回のピット作業に連続的にあたる状態となるなか、小さなミスはありましたが、スタッフたちは混雑したピットレーンで作業をこなしてくれました。大嶋を17号車の前で出せていけば、というところはありましたけどね。

大嶋は17号車をコース上でパスしたあとのペースが良く、最後は運も味方してくれて8位入賞、ポイントゲットするところまで上がったことは良かったと思います。ドライバーができる仕事としては、実にいい仕事をしてくれました。急遽の参戦となった中山も、準備が充分にはできなかったなかではレースペースもわるくはなく、チームとしてもレギュラー以外のドライバーから貴重なフィードバックを得ることができました。助っ人としての役割をしっかりと果たしてくれたと思います。残すは最終戦鈴鹿のみとなりました。一年を締めくくり、2020年につながるようなレースをしたいと思います。まずはミディアムタイヤの研究をしっかりとやります。

## シリーズランキング

マルケロフ選手	一位／一ポイント
中山選手	一位／一ポイント
大嶋選手	13位／7ポイント
チーム部門	10位／7ポイント



# SUPER FORMULA Rd.6 Okayama International Circuit race report *Team Le Mans*

## ◆その他サーキット内イベント報告

### ◆観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約 17,700人

9月28日 土曜 (天気:曇り~晴れ) 6,700人

9月29日 日曜 (天気:晴れ~曇り) 11,000人

### ◆ピットウォーク

開催日程 9月28日 11:05~11:50

9月29日 12:20~13:10

### ◆キッズウォーク

開催日程 9月28日 17:20~17:55

(少し遅れての実施に)

主催 JRP、岡山国際サーキット  
中山雄一、大嶋和也

ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供等を行ない、今回もたくさんのお客様をお迎えすることが出来ました。決勝レース開始前にはグリッドウォークも実施されています。

